

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・集合、ベン図、条件付確率:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(8回目) ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(9回目) ・相関関係、相関関係と因果関係:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(9-10回目) ・名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(9回目) ・確率分布、正規分布、独立同一分布:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(9-10回目) ・ベクトルと行列:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(2回目) ・ベクトルの演算、ベクトルの和とスカラー倍、内積:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(2回目) ・行列の演算、行列の和とスカラー倍、行列の積:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(2回目) ・アルゴリズムの表現(フローチャート、アクティビティ図):「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(4、10回目) ・並び替え(ソート)、探索(サーチ):「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(5、10回目) ・ソートアルゴリズム(バブルソート、選択ソート、挿入ソートなど):「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(5、10回目) ・探索アルゴリズム(線形探索、二分探索、リスト探索、木探索など):「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(5、10回目) ・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など):「データ科学と社会Ⅰ」(6-8回目)、「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(8回目) ・構造化データ、非構造化データ:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(11回目) ・情報量の単位(ビット、バイト)、二進数、文字コード:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(8回目) ・配列、木構造(ツリー)、グラフ:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(10-11回目) ・文字型、要約数、浮動小数点型:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(6-7回目) ・変数、代入、四則演算、論理演算:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(6-7回目) ・配列、照数、引数、戻り値:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(6-7回目)
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	<ul style="list-style-type: none"> ・データ駆動型社会、Society 5.0:「データ科学と社会Ⅰ」(2回目) ・データサイエンス活用事例(仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替など):「データ科学と社会Ⅱ」(5-8回目)、「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(8、14回目) ・データ分析の進め方、仮説検証サイクル:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(13-14回目) ・分析目的の設定:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(14回目) ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスターリングなど):「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(1-5、11-12回目) ・様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など):「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(11-12回目) ・データの収集、加工、分割/統合:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(11-14回目)、「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(7-8、11-12回目) ・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ:「データ科学と社会Ⅰ」(2-4回目)、「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(8回目)、「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(7-8回目) ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス:「データ科学と社会Ⅰ」(2-4回目)、「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(8回目)、「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(7-8、11-12回目) ・ビッグデータ活用事例:「データ科学と社会Ⅰ」(2-4回目)、「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(11-12回目) ・ソーシャルメディアデータ:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(8回目) ・AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム:「データ科学と社会Ⅰ」(2回目)、「データ科学と社会Ⅱ」(5回目)、「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(2回目) ・汎用AI(特化型AI(強いAI)/弱いAI):「データ科学と社会Ⅰ」(2回目)、「データ科学と社会Ⅱ」(5回目)、「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(2回目) ・フレーム問題、シンボルグラウンディング問題:「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(2回目) ・人間の知的活動とAI技術(学習、認識、予測・判断、知識・言語、身体・運動):「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(2回目) ・AI技術の活用領域の広がり(教育、芸術、流通、製造、金融、インフラ、公共、ヘルスケアなど):「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(2回目) ・AI倫理、AIの社会的受容性:「データ科学と社会Ⅱ」(3-4回目)、「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(4回目) ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い:「データ科学と社会Ⅱ」(3回目)、「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(4回目) ・AIに関する原則/ガイドライン:「データ科学と社会Ⅱ」(4回目)「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(4回目) ・AIの公平性、AIの信頼性、AIの説明可能性:「データ科学と社会Ⅱ」(4回目)「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(4回目) ・実世界で進む機械学習の応用と発展(需要予測、異常検知、商品推薦など):「データ科学と社会Ⅱ」(6-8回目)、「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(2-3回目) ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習:「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(1-5回目) ・学習データと検証データ:「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(3回目) ・ホールドアウト法、交差検証法:「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(3回目) ・過学習、バイアス:「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(3回目) ・実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識、自然言語処理、音声生成など):「データ科学と社会Ⅱ」(6-8回目)、「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(3回目) ・ニューラルネットワークの原理:「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(3回目) ・ディープニューラルネットワーク(DNN):「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(3回目) ・実世界で進む生成AIの応用と革新(対話、コンテンツ生成、翻訳、要約・執筆支援、コーディング支援など):「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(5回目) ・基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル:「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(5回目) ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・拡散など):「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(5回目) ・マルチモーダル(言語、画像、音声など):「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(5回目) ・プロンプトエンジニアリング:「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(5回目) ・ファインチューニング:「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(5回目) ・AIの学習と推論、評価、再学習:「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(3回目)

<p>(3)本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用 企画・実施・評価」から構成される。</p>	I	<ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムの表現(フローチャート、アクティビティ図):「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(4回目) ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(9回目) ・相関係数、相関関係と因果関係:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(9-10回目) ・確率分布、正規分布、独立同一分布:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(9-10回目)
	II	<ul style="list-style-type: none"> ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習:「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(1-5回目) ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど):「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(11-12回目) ・様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など):「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(11-12回目) ・データの収集、加工、分割/統合:「データサイエンス応用基礎Ⅰ」(11-14回目)「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(7-8、11-12回目) ・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ:「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(7-8回目、11-12回目) ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス:「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(7-8、11-12回目) ・実世界で進む生成AIの応用と革新(対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など):「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(9-10回目) ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・拡散など):「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(9-10回目) ・プロンプトエンジニアリング:「データサイエンス応用基礎Ⅱ」(9-10回目)

⑦プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<p>(1)データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力 (2)自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点 (3)AIの基本的な概念と手法、応用例を学ぶことで、AI技術を活用し課題解決につなげる能力</p>
--

応用基礎レベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和7 年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

学部・学科名称	学生数		入学定員	収容定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		履修者数合計	履修率
	うち女性				履修者数	修了者数												
経済学部	1,439	523	330	1,365	338	0											338	25%
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
合計	1,439	523	330	1,365	338	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	338	25%

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	925	人
(非常勤)	440	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

10	人
----	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	山口 真悟
(役職名)	情報・データ科学教育センター長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	情報・データ科学教育センター
------	----------------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	山口大学情報・データ科学教育センター規則
------	----------------------

⑥ 体制の目的

情報・データ科学教育センターは、データサイエンス教育の管理、運営体制の整備及び組織的指導体制を確立するとともに、数理的思考を備え、データ分析・活用できる人材を育成し、もって社会の課題解決・発展に資することを目的とする(規則第2条)。この目的を達成するため、センターはデータサイエンス教育の開発・検証・改善の業務を行う(規則第3条)。

⑦ 具体的な構成員

情報・データ科学教育センター長 大学院創成科学研究科 教授 山口 真悟
 副センター長 教育学部 教授 北本 卓也
 副センター長 大学院創成科学研究科 教授 西井 淳
 共通教育実施部会長 センター専任教員 准教授 木下 真
 共通教育企画調整部会長 センター専任教員 准教授 宇田 新介
 データサイエンス教育専門部会長 大学院創成科学研究科 准教授 藤田 悠介
 データサイエンス教育全学調整部会長 教育学部 教授 北本 卓也
 データサイエンス教育大学院部会長 大学院創成科学研究科 教授 山口 真悟
 リカレント教育部会長 大学院創成科学研究科 准教授 佐村 俊和
 教育支援課 課長 梶村 裕二

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	25%
令和8年度予定	50%
令和9年度予定	75%
令和10年度予定	100%
令和11年度予定	100%

具体的な計画

令和7年度から、当該プログラムを開講している。これらは、経済学部の共通教育2科目と専門科目2科目の計4科目、6単位で構成されている。このうち、共通教育の2科目は卒業要件上の必修科目であり、1年次に全員が履修することになっている。専門の2科目は、共通教育2科目が履修済みであることを前提に、2年次以降に履修することを想定している。

学部の専門科目については、卒業要件上は選択科目となっている。履修率促進のため、年度当初のオリエンテーションなどの機会を活用し、学生に履修を呼びかける。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

当該プログラム構成科目のうち専門の2科目については、選択必修科目又は自由選択科目として、経済学部のすべての学科・コースにおいて学位プログラムの一部として位置付けられており、修得した単位は卒業要件に含むことができる。学部規則上、これらの授業科目には配当年次を指定していないので、学生の履修計画に合わせて、無理のない履修が可能である。

また、学生の所属によって履修制限はかけていないので、学部・学環に関係なくすべての学生が関連科目を履修することができる。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

経済学部では、年度当初に履修に関するオリエンテーションにおいて、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度【応用基礎レベル】について説明する時間を設け、データサイエンスの意義について学生の理解を促し、履修の継続を呼びかける。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

選択科目の時間割について、大教室で実施される他の必修科目との重複を避けた時間で設定しており、経済学部すべての学生が卒業までに受講する機会が得られるよう配慮している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業に関する質問や相談は授業中だけでなく、授業時間外においても修学支援システムや学習管理システムMoodle、メール等によるオンラインで応じている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

情報・データ科学教育センター

(責任者名)

山口 真悟

 (役職名)

情報・データ科学教育センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本学では、全学的に修学支援システム(eYUSDL: electronic system of Yamaguchi University Self-Directed Learning)を構築し、その運用を通じて本教育プログラムを構成する科目を含めた全ての科目の履修状況、単位取得状況を収集している。これらのデータを活用することによって、プログラム希望者が該当科目を履修していることを確認している。また当該科目の単位取得状況から本教育プログラムの修得状況を把握している。
学修成果	本学では修学支援システムに授業評価アンケート機能を構築し、運用している。また、情報・データ科学センターは個別の授業でなく、教育プログラム全体の評価アンケートも実施している。受講生は学期末にアンケートをシステムに入力する。結果を総合的に分析することによって、授業内容の学生の理解度を把握することができる。その結果を経済学部及び情報・データ科学教育センターで共有し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	上記アンケートの項目「あなたは、この授業の内容を理解できましたか？」の結果を分析することによって、授業内容の学生の理解度を把握することができる。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	上記アンケートの項目「あなたは、後輩学生や他の学生へこの授業科目の受講を推奨しますか？」の結果を分析することによって推奨度を把握している。

	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本学情報・データ科学センターにおいて履修者数、履修率を把握し、経済学部と連携しながら計画達成を目指す。
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本学では卒業生調査システムを構築しており、その運用を通じて本教育プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況を把握する仕組みができています。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学ではデータサイエンティスト協会が定めたスキルチェックリストを参考にすることによって、産業界からの視点を取り入れて教育プログラムを設計している。本教育プログラムを構成する「データ科学と社会Ⅱ」には、地元企業の方を講師とした授業があり、教育プログラムの内容に産業界の視点を含めている。「データ科学と社会Ⅱ」の学外講師を中心に地域の自治体や企業およそ20団体とデータサイエンス教育の協力体制を構築し、学外の意見を取り入れる仕組みがある。
教理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		周りからの指示や教えがなくても、学生は、データサイエンスやAIの重要性をすでに理解している。不足している点は、実際にデータサイエンスやAIが社会や企業においてどう利用されているかの把握であり、そのための情報提供を経済学部の各授業、特に演習等において随時行っている。また、本教育プログラムを構成する「データ科学と社会Ⅱ」でも、地元企業の講師による活用成功事例を紹介してもらい、学生のモチベーションを高める授業内容を設けている。また、それぞれの専攻分野における教理・データサイエンス・AIの活用事例を紹介してもらい、それらを学ぶことの意義を理解させる授業内容にしている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		山口大学ではデータサイエンティスト協会が定めたスキルチェックリスト等を参考にデータサイエンス教育レベルを開発し、それに基づいて本教育プログラムや専門課程プログラムを構築しており、教育内容と水準を維持している。情報・データ科学教育センターは、受講生からのアンケートの結果、企業や自治体からの意見を参考に、各学科の専門性を考慮して学生に「分かりやすい」授業となるよう、定期的に会合を開き、授業の改善に取り組んでいる。また、各科目において、担当教員が専門分野におけるデータサイエンス技術の応用例を紹介する場合は、常に、最新の事例を紹介できるように、情報収集を行っている。

Syllabus

開講年度	開講学部等		
2025	共通教育		
開講学期	曜日時限	授業形態	AL(アクティブ・ラーニング)ポイント
前期前半	月5~6	講義	2.0
時間割番号	科目名[英文名]	使用言語	単位数
1001020002	データ科学と社会 I (データ科学と社会 I) [Data Science and Society I]	日本語	1
担当教員(責任)[ローマ字表記]	メディア授業		
矢吹 溪悟	—		
担当教員[ローマ字表記]			
矢吹 溪悟, 齊藤 智也 [SAITOH Tomoya]			
特定科目区分	対象学生	対象年次	
	経(271-)	1~	
ディプロマ・ポリシーに関わる項目	カリキュラムマップ(授業科目とDPとの対応関係はこちらから閲覧できます)		

授業の目的と概要

AIをはじめとする技術が急速に発展し、社会のあらゆる分野で利活用が進んでいる。

この授業では、これらの技術を支えるデータサイエンスを学ぶ意義を知るとともに、その基礎となるデータリテラシー(データを的確に理解し、解釈し、分析する能力)を身に付けることを目的とする。

授業の到達目標

「超スマート社会」の到来に備えて、それを支えるデータサイエンスの概要を理解するとともに、情報および情報手段を主体的に選択し、正しく安全に活用するための基礎的な知識・技能を身につける。

授業計画

【全体】

データサイエンスの概要、その基礎となるデータリテラシーを解説する。

授業では、講義(動画視聴を含む)およびパソコンを用いた演習を行う。

	項目	内容	授業時間外学習	備考
第1回	はじめに	講義概要を説明し、必要な準備を行う。	授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと(学修時間の目安は4時間とする)。	
第2回	社会で起きている変化	膨大なデータの生成と流通、計算機の進化、AIの発展が社会もたらす変化を解説し、データサイエンスを学ぶ意義を説明する。	授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと(学修時間の目安は4時間とする)。	
第3回	社会で活用されているデータ	社会ではどのようなデータが収集され活用されているのかを解説する。	授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと(学修時間の目安は4時間とする)。	
第4回	データ・AIの活用領域	データおよびAIは、研究開発、生産、マーケティング、文化活動など幅広い領域で活用されており、効率化や新たな価値の創出に貢献していることを解説する。	授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと(学修時間の目安は4時間とする)。	
第5回	データリテラシーの概論、準備	データリテラシーの概要を解説し、演習に必要な準備を行う。	授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと(学修時間の目安は4時間とする)。	
第6回	データを読む	データを読み解く方法について解説する。	授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと(学修時間の目安は4時間とする)。	
第7回	データを説明する	データの可視化や比較など、データを適切に説明する方法を解説する。	授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと(学修時間の目安は4時間とする)。	
第8回	データを扱う	データの取得や集計、並び替えなど、データを扱う方法について解説する。	授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと(学修時間の目安は4時間とする)。	

※AL(アクティブ・ラーニング)欄に関する注

・授業全体で、AL(アクティブ・ラーニング)が占める時間の割合を、それぞれの項目ごとに示しています。

・A~Dのアルファベットは、以下の学修形態を指しています。

【A: グループワーク】、【B: ディスカッション・ディベート】、【C: フィールドワーク(実験・実習、演習を含む)】、【D: プレゼンテーション】

A: ー% B: ー% C: 20% D: ー%

成績評価法

授業時間の内外のレポート 100%

欠席は1回まで認めるが、2回以上欠席した場合は原則として単位を認定しない。

教科書にかかわる情報

備考

必要に応じて講義資料を配布する。

参考書にかかわる情報

備考

必要に応じて補足資料を配布する、もしくは補足資料となるWebページ等を紹介する。

メッセージ

キーワード

データサイエンス

情報リテラシー

持続可能な開発目標 (SDGs)



(インフラ、産業化、イノベーション)強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。

関連科目

履修条件

連絡先

電子メールによる問合せ先。

矢吹 : yabuki<atmark>yamaguchi-u.ac.jp

齊藤 : t-saito<atmark>yamaguchi-u.ac.jp

<atmark>の箇所は半角文字のアットマークに置き換えてください。

オフィスアワー

火曜日の午前・午後。

事前にメール等でご連絡をいただくほうが確実です。

事前にご連絡をいただけましたら、その他の曜日・時間帯でも対応可能です。

Syllabus

開講年度	開講学部等		
2025	共通教育		
開講学期	曜日時限	授業形態	AL(アクティブ・ラーニング)ポイント
前期後半	月9～10	講義	
時間割番号	科目名[英文名]	使用言語	単位数
1001020053	データ科学と社会Ⅱ(データ科学と社会Ⅱ)[Data Science and SocietyⅡ]	日本語	1
担当教員(責任)[ローマ字表記]			メディア授業
藤田 智文[FUJITA Tomotake]			—
担当教員[ローマ字表記]			
藤田 智文 [FUJITA Tomotake], 岡田 耕一 [OKADA Kohichi]			
特定科目区分	対象学生	経(181-)	対象年次 1～
ディプロマ・ポリシーに関わる項目		カリキュラムマップ(授業科目とDPとの対応関係はこちらから閲覧できます)	

授業の目的と概要

(1) データ・AIの利活用において留意すべきことを理解し、実践できるようになること。

情報セキュリティ、倫理、法規について解説する。

(2) データ科学と社会Ⅰの内容を踏まえて、データサイエンスについての理解を深めること。

データ・AI利活用のための技術や最新動向について解説する。また、業務や研究におけるデータサイエンスの活用事例を紹介する。

授業の到達目標

「超スマート社会」の到来に備えて、それを支えるデータサイエンスの概要を理解するとともに、情報および情報手段を主体的に選択し、正しく安全に活用するための基礎的な知識・技能を身につける。

授業計画

【全体】

データ・AIの利活用のために必須の留意事項(情報セキュリティ、倫理、法規)について解説する。また、データ科学と社会Ⅰの内容を踏まえて、データ・AI利活用のための技術とその最新動向について説明する。

授業は、講義形式(動画の視聴を含む)を主として実施する。

	項目	内容	授業時間外学習	備考
第1回	はじめに	講義概要を説明し、必要な準備を行う。	授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと(学修時間の目安は4時間とする)。。	
第2回	データを守る上での留意事項	情報セキュリティの考え方と具体的な対策方法について説明する。	授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと(学修時間の目安は4時間とする)。	
第3回	データ・AIを扱う上での留意事項①	データやAIを活用する上で留意すべきことについて、法規を中心に解説する。	授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと(学修時間の目安は4時間とする)。	
第4回	データ・AIを扱う上での留意事項②	データやAIを活用する上で留意すべきことについて、倫理を中心に解説する。	授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと(学修時間の目安は4時間とする)。	
第5回	産業分野におけるデータ・AI利活用の現場	企業等に在籍する学外講師が、業務におけるデータやAIの利活用事例を解説する。	授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと(学修時間の目安は4時間とする)。	
第6回	データ・AI利活用のための技術	データサイエンスやAI利活用において、どのような技術が用いられているかについて解説する。	授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと(学修時間の目安は4時間とする)。	
第7回	データ・AI利活用の最新動向	データ・AI利活用の最新動向について解説する。	授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと(学修時間の目安は4時間とする)。	
第8回	学術分野におけるデータ・AI利活用の現場	学生が所属する学部専攻分野を担当する教員が、研究におけるデータやAIの利活用事例を解説する。	授業内で指示した内容について、予習・復習を行うこと(学修時間の目安は4時間とする)。	

※AL(アクティブ・ラーニング)欄に関する注

・授業全体で、AL(アクティブ・ラーニング)が占める時間の割合を、それぞれの項目ごとに示しています。

・A～Dのアルファベットは、以下の学修形態を指しています。

【A:グループワーク】、【B:ディスカッション・ディベート】、【C:フィールドワーク(実験・実習、演習を含む)】、【D:プレゼンテーション】

A: ー% B: ー% C: ー% D: ー%

成績評価法

授業内の課題(80%)と期末レポート(20%)で評価する。期末試験はありません。

教科書にかかわる情報

備考

授業資料は LMS Moodle の以下のコースにて配布します。

<https://mdcs5.cc.yamaguchi-u.ac.jp/moodle/course/view.php?name=2025.1.1001020053>

参考書にかかわる情報

備考

メッセージ

この授業は二人の教員(経済学部:藤田智丈、情報基盤センター:岡田先生)で実施します。

キーワード

持続可能な開発目標(SDGs)

関連科目

履修条件

連絡先

藤田: tomotake@yamaguchi-u.ac.jp、研究室は経済学部A棟309。

岡田: 修学支援システムのメッセージ機能、または Moodle 上のメッセージ機能から連絡してください。

オフィスアワー

藤田: 対面は授業日の昼休み、メールは随時。

岡田: メッセージ機能による連絡を受け次第随時対応します。

Syllabus

開講年度	開講学部等		
2025	共通教育		
開講学期	曜日時限	授業形態	AL(アクティブ・ラーニング)ポイント
前期	火7~8	講義	
時間割番号	科目名[英文名]	使用言語	単位数
1001240002	総合科目B2(データサイエンス応用基礎 I)[Comprehensive SubjectB2]	日本語	2
担当教員(責任)[ローマ字表記]			メディア授業
山口 真悟[YAMAGUCHI Shingo]			○
担当教員[ローマ字表記]			
山口 真悟 [YAMAGUCHI Shingo], 北本 卓也 [KITAMOTO Takuya], 宇田 新介, 相田 紗織 [AIDA Saori], 末長 宏康			
特定科目区分	対象学生	対象年次	
	全学生		
ディプロマ・ポリシーに関わる項目		カリキュラムマップ(授業科目とDPとの対応関係はこちらから閲覧できます)	

授業の目的と概要

データサイエンスの基本的な概念と手法を学ぶことで、データから意味を抽出し、現場にフィードバックするための方法を理解する。「データ科学と社会 I」と「データ科学と社会 II」を履修済みであることが望ましい。

授業の到達目標

分野横断的な学習や新しい分野等の学習により総合的・多角的な視野を身につけ、多様な社会に対応するための力を養う。

【データサイエンス応用基礎 I の一般目標】

- ・データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力
- ・AIの基本的な概念と手法、応用例を学ぶことで、AI技術を活用し課題解決につなげる能力

授業計画

【全体】

第1週はイントロダクションとして、本科目「データサイエンス応用基礎 I」と後継科目「データサイエンス応用基礎 II」の全体像や、それらを学ぶ意義について説明する。第2週から第7週まではデータサイエンスを学ぶための基本的な数学やプログラミングについて学ぶ。第8週以降はデータサイエンスの技術について学ぶ。

	項目	内容	授業時間外学習	備考
第1回	イントロダクション	授業内容の全体像や、それらを学ぶ意義などを説明する。	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)	
第2回	データサイエンスのための線形代数	データ・AI活用に必要な線形代数の基礎を学ぶ	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)	
第3回	データサイエンスのための微分積分	データ・AI活用に必要な微分積分の基礎を学ぶ	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)	
第4回	アルゴリズムの表現	データ・AI活用に必要なアルゴリズムの表現を学ぶ	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)	
第5回	アルゴリズムの具体例	データ・AI活用に必要なアルゴリズムの具体例を学ぶ	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)	
第6回	プログラミング(1)~データの扱い方と計算	データ・AI活用に必要なプログラミングの基礎として、データの扱い方と計算を学ぶ。	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)	
第7回	プログラミング(2)~配列と関数~	データ・AI活用に必要なプログラミングの基礎として、配列と関数を学ぶ。	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)	
第8回	データサイエンス、統計数理基礎1	データの記述	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)	
第9回	統計数理基礎2	確率と確率分布	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)	
第10回	統計数理基礎3、統計的推測・統計的検定 1	推測、予測、検定、判断		

			授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業の内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)
第11回	統計的推測・統計的検定2	統計的推測・統計的検定	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業の内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)
第12回	データ分析と可視化1	データの可視化(1)	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業の内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)
第13回	データ分析と可視化2	データの可視化(2)	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業の内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)
第14回	データ分析と可視化3	意味抽出	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業の内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)
第15回	データ分析と可視化4	クロス集計表	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業の内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)

※AL(アクティブ・ラーニング)欄に関する注

・授業全体で、AL(アクティブ・ラーニング)が占める時間の割合を、それぞれの項目ごとに示しています。

・A～Dのアルファベットは、以下の学修形態を指しています。

【A:グループワーク】、【B:ディスカッション・ディベート】、【C:フィールドワーク(実験・実習、演習を含む)】、【D:プレゼンテーション】

A: -% B: -% C: -% D: -%

成績評価法

小テスト 50%、レポート 50%で評価する。

出席は欠格条件とし、4回以上の欠席は欠格とします。

教科書にかかわる情報

教科書	書名	データサイエンス技術	ISBN	9784780612561
	著者名	相田紗織著	出版社	学術図書出版社
			出版年	2024

備考

参考書にかかわる情報

備考

メッセージ

この授業は数理・DS・AI教育プログラム(応用基礎レベル)の必修科目です。数理・DS・AI教育プログラム(応用基礎レベル)については各学部教務係もしくは情報・データ科学教育センターにお尋ねください。パソコンを使った演習を行うので、ノートパソコンが必要なので持参してください。

キーワード

データサイエンス、AI、数学、プログラミング

持続可能な開発目標(SDGs)



(インフラ、産業化、イノベーション)強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。

関連科目

データ科学と社会 I、データ科学と社会 II、データサイエンス応用基礎 II

履修条件

データ科学と社会 I、データ科学と社会 IIを履修済みであることが望ましい。

連絡先

情報データ科学教育センター

dsm@yamaguchi-u.ac.jp

各教員にお尋ねください。

Syllabus

開講年度	開講学部等		
2025	共通教育		
開講学期	曜日時限	授業形態	AL(アクティブ・ラーニング)ポイント
後期	木7~8	講義	3.0
時間割番号	科目名[英文名]	使用言語	単位数
1002240001	総合科目B2(データサイエンス応用基礎Ⅱ)[Comprehensive SubjectB2]	日本語	2
担当教員(責任)[ローマ字表記]			メディア授業
山口 真悟[YAMAGUCHI Shingo]			○
担当教員[ローマ字表記]	山口 真悟 [YAMAGUCHI Shingo], 北本 卓也 [KITAMOTO Takuya], 宇田 新介, 相田 紗織 [AIDA Saori], 澄重 成記		
特定科目区分	対象学生	対象年次	
	全学生		
ディプロマ・ポリシーに関わる項目	カリキュラムマップ(授業科目とDPとの対応関係はこちらから閲覧できます)		

授業の目的と概要

データサイエンスの基本的な概念と手法を学ぶことで、データから意味を抽出し、現場にフィードバックするための方法を理解する。「データ科学と社会Ⅰ」と「データ科学と社会Ⅱ」、「データサイエンス応用基礎Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。

授業の到達目標

分野横断的な学習や新しい分野等の学習により総合的・多角的な視野を身につけ、多様な社会に対応するための力を養う。

【データサイエンス応用基礎Ⅱの一般目標】

- ・データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力
- ・自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点
- ・AIの基本的な概念と手法、応用例を学ぶことで、AI技術を活用し課題解決につなげる能力

授業計画

【全体】

第1週から第6週まではデータサイエンスの技術について学ぶ。第7週と第8週はデータを収集し加工するためのデータエンジニアリングを学ぶ。第9週から第14週まではオープンデータを使って自ら課題を設定し、データの分析やモデルを構築し、その成果を発表するPBL演習を行う。第15週は全体を振り返り、データサイエンスを用いて現場にフィードバックするための方法について考えるまとめを行う。

	項目	内容	授業時間外学習	備考
第1回	機械学習1	クラスタリング(1)	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)	
第2回	機械学習2	クラスタリング(2)	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)	
第3回	機械学習3	人工知能	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)	
第4回	機械学習4	モデル評価	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)	
第5回	機械学習5	モデル評価	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)	
第6回	機械学習6	主成分分析と因子分析	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)	
第7回	データ収集	インターネット等からのデータ収集方法を学ぶ	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)	
第8回	データ加工	収集したデータの加工方法を学ぶ	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)	
第9回		オープンデータを使って自ら課題を設定し、データの分析やモデルを構築し、その成果発表を行う。第9~10週では、企画(課		

	PBL演習 企画(課題定義・課題解決方法の検討、仮説立案・分析設計、AI技術選定)	題定義・課題解決方法の検討、仮説立案・分析設計、AI技術選定)を行う。	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)
第10回	PBL演習 企画(課題定義・課題解決方法の検討、仮説立案・分析設計、AI技術選定)	オープンデータを使って自ら課題を設定し、データの分析やモデルを構築し、その成果発表を行う。第9～10週では、企画(課題定義・課題解決方法の検討、仮説立案・分析設計、AI技術選定)を行う。	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)
第11回	PBL演習 実施(データ収集およびデータ加工・データ分析の実施)	オープンデータを使って自ら課題を設定し、データの分析やモデルを構築し、その成果発表を行う。第11～12週では、実施(データ収集およびデータ加工・データ分析の実施)を行う。	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)
第12回	PBL演習 実施(データ収集およびデータ加工・データ分析の実施)	オープンデータを使って自ら課題を設定し、データの分析やモデルを構築し、その成果発表を行う。第11～12週では、実施(データ収集およびデータ加工・データ分析の実施)を行う。	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)
第13回	PBL演習 実施(データ収集およびデータ加工・データ分析の実施)	オープンデータを使って自ら課題を設定し、データの分析やモデルを構築し、その成果発表を行う。第13～14週では、評価(データ・AI活用結果の共有・データ・AI活用結果の評価、改善事項の確認)を行う。	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)
第14回	PBL演習 評価(データ・AI活用結果の共有・データ・AI活用結果の評価、改善事項の確認)	オープンデータを使って自ら課題を設定し、データの分析やモデルを構築し、その成果発表を行う。第13～14週では、評価(データ・AI活用結果の共有・データ・AI活用結果の評価、改善事項の確認)を行う。	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)
第15回	まとめ	全体を振り返り、データサイエンスを用いて現場にフィードバックするための方法について考える。	授業に関する資料(テキストを含む)を読み、事前に授業内容を把握しておくこと。(目安時間4時間)

※AL(アクティブ・ラーニング)欄に関する注

・授業全体で、AL(アクティブ・ラーニング)が占める時間の割合を、それぞれの項目ごとに示しています。

・A～Dのアルファベットは、以下の学修形態を指しています。

【A:グループワーク】、【B:ディスカッション・ディベート】、【C:フィールドワーク(実験・実習、演習を含む)】、【D:プレゼンテーション】

A: 10% B: 5% C: 10% D: 5%

成績評価法

小テスト 50%、レポート 50%で評価する。

出席は欠格条件とし、4回以上の欠席は欠格とします。

教科書にかかわる情報

教科書	書名	データサイエンス技術	ISBN	9784780612561
	著者名	相田紗織著	出版社	学術図書出版社
			出版年	2024

備考

参考書にかかわる情報

備考

メッセージ

この授業は数理・DS・AI教育プログラム(応用基礎レベル)の必修科目です。数理・DS・AI教育プログラム(応用基礎レベル)については各学部教務係もしくは情報・データ科学教育センターにお尋ねください。パソコンを使った演習を行うので、ノートパソコンが必要なので持参してください。

キーワード

データサイエンス、AI、数学、プログラミング

持続可能な開発目標(SDGs)



(インフラ、産業化、イノベーション)強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。

■ 関連科目

データ科学と社会Ⅰ、データ科学と社会Ⅱ、データサイエンス応用基礎Ⅰ

■ 履修条件

データ科学と社会Ⅰ、データ科学と社会Ⅱ、データサイエンス応用基礎Ⅰを履修済みであることが望ましい。

■ 連絡先

情報データ科学教育センター
dsm@yamaguchi-u.ac.jp

■ オフィスアワー

各教員にお尋ねください。

教育課程編成表等								
(経済学部経済学科 本科 経済履修)								
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考		
			必修	選択	自由			
共通教育科目	教養コア	基礎セミナー	1	2				
		データ科学と社会Ⅰ	1	1				
		データ科学と社会Ⅱ	1	1				
		知的財産入門	1	1				
		運動健康科学	1	1				
		山口と世界	1	1				
		知の広場	1	1				
		キャリア教育	3	1				
		小計(8科目)			9	0	0	
	英語	英語Ⅰa	1		2		いずれか1科目を修得すること。	
		英語Ⅱa	1		2			
		英語Ⅰb	1		2		いずれか1科目を修得すること。	
		英語Ⅱb	1		2			
		英語会話Ⅰa	1		1		いずれか1科目を修得すること。	
		英語会話Ⅱa	1		1			
		英語会話Ⅰb	1		1		いずれか1科目を修得すること。	
		英語会話Ⅱb	1		1			
		小計(8科目)			0	6	0	
	一般教養	人文教養	哲学	1	1			
			歴史学	1	1			
			社会学	1	1			
			小計(3科目)			3	0	0
		社会教養	経済と法1	1	1			
			経済と法2	1	1			
			経済と法3	1	1			
		小計(3科目)			3	0	0	
		自然科学	自然科学1	1	1			
			自然科学2	1	1			
			小計(2科目)			2	0	0
		学際的教養	人間の発達と育成1	1	1			
			人間の発達と育成2	1	1			
	文化の継承と創造1		1	1				
	文化の継承と創造2		1	1				
	社会と医療		1	1				
	環境と人間		1	1				
	食と生命		1	1				
小計(7科目)			7	0	0			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	必修	選択	自由	備考		
専門科目	基盤科目	ミクロ経済学Ⅰ	1	4				
		マクロ経済学Ⅰ	1	2				
		簿記	1	2				
		法学Ⅰ(国際法を含む。)	1	2				
		法学Ⅱ	1	2				
		小計(5科目)			12	0	0	
	A科目	経済政策総論	1・2・3・4		2			
		国際経済学	1・2・3・4		2			
		国際マクロ経済学	1・2・3・4		2			
		小計(3科目)			6	0	0	
		別表2の経済本科(経済)の欄にAと記載されている科目	1・2・3・4			46		その内、別表2の経済学系列の科目から12単位以上修得すること。
	小計(科目)			0	46	0		
	B科目	別表2の経済本科(経済)の欄にBと記載されている科目	1・2・3・4			4		
		小計(科目)			0	4	0	
	自由科目	別表2の経済本科(経済)の欄が無印の科目	1・2・3・4			14		A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。
		小計(科目)			0	14	0	
		演習Ⅰ	2		4			
		演習Ⅱ	3		4			
		卒業論文演習	4		4			
	小計(3科目)			12	0	0		
	合計(科目)			54	70	0		
卒業(修了)要件及び履修方法								
【卒業要件】								
共通教育科目から30単位、専門科目から94単位、合計124単位を修得する。								
I 共通教育科目								
必修科目24単位及び選択必修科目6単位を含め、30単位を修得する。								
(必修科目24単位 内訳)								
・教養コア系列 9単位								
・一般教養系列(人文教養分野) 3単位								
・一般教養系列(社会教養分野) 3単位								
・一般教養系列(自然科学分野) 2単位								
・一般教養系列(学際的教養分野) 7単位								
(選択必修科目6単位 内訳)								
・英語系列から6単位								
II 専門科目								
経済学部本科経済履修の専門科目から94単位(必修科目30単位及び選択必修科目64単位を含む。)以上を修得する。								
(必修科目30単位 内訳)								
・基盤科目 12単位								
・経済政策総論 2単位、国際経済学 2単位、国際マクロ経済学 2単位								
・演習Ⅰ 4単位、演習Ⅱ 4単位、卒業論文演習 4単位								
(選択必修科目64単位 内訳)								
・A科目から46単位								
(その内、別表2の経済学系列の科目から12単位以上修得すること。)								
・B科目から4単位								
・自由科目から14単位								
(A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)								
III TOEICスコア								
・山口大学が定める英語の試験においてTOEIC400点以上を取得したとみなされること。								

教育課程編成表等							
(経済学部経済学科 本科 国際経済履修)							
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考	
			必修	選択	自由		
共通教育科目	教養コア	基礎セミナー	1	2			
		データ科学と社会Ⅰ	1	1			
		データ科学と社会Ⅱ	1	1			
		知的財産入門	1	1			
		運動健康科学	1	1			
		山口と世界	1	1			
		知の広場	1	1			
		キャリア教育	3	1			
		小計(8科目)		9	0	0	
		英語	英語Ⅰa	1		2	
	英語Ⅱa		1		2		
	英語Ⅰb		1		2		いずれか1科目を修得すること。
	英語Ⅱb		1		2		
	英語会話Ⅰa		1		1		
	英語会話Ⅱa		1		1		いずれか1科目を修得すること。
	英語会話Ⅰb		1		1		
	英語会話Ⅱb		1		1		いずれか1科目を修得すること。
	小計(8科目)		0	6	0		
	一般教養	人文教養	哲学	1	1		
			歴史学	1	1		
			社会学	1	1		
		社会教養	経済と法1	1	1		
			経済と法2	1	1		
			経済と法3	1	1		
		自然科学	自然科学1	1	1		
			自然科学2	1	1		
			小計(2科目)		2	0	0
		学際的教養	人間の発達と育成1	1	1		
			人間の発達と育成2	1	1		
			文化の継承と創造1	1	1		
文化の継承と創造2	1		1				
社会と医療	1		1				
環境と人間	1		1				
食と生命	1	1					
小計(7科目)		7	0	0			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考	
専門科目	基礎科目	ミクロ経済学Ⅰ	1	4			
		マクロ経済学Ⅰ	1	2			
		簿記	1	2			
		法学Ⅰ(国際法を含む。)	1	2			
		法学Ⅱ	1	2			
	小計(5科目)		12	0	0		
	A科目	経済政策総論	1・2・3・4	2			その内、別表2の経済学系列の理論経済、計量経済、数理経済、動学経済、経済政策、金融経済、公共経済、地域経済、社会経済、政治経済、経済史の分野の科目から8単位以上、かつ国際経済学、国際金融、国際関係、国際協力、経済発展、東アジア経済社会、中国経済社会の分野の科目から12単位以上修得すること。
		国際経済学	1・2・3・4	2			
		国際マクロ経済学	1・2・3・4	2			
		小計(3科目)		6	0	0	
	自由科目	別表2の経済本科(国際経済)の欄が無印の科目	1・2・3・4		26		A科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。
		小計(科目)		0	38	0	—
		演習Ⅰ	2	4			
		演習Ⅱ	3	4			
		卒業論文演習	4	4			
小計(3科目)		12	0	0			
合計(科目)		54	70	0			
卒業(修了)要件及び履修方法							
【卒業要件】							
共通教育科目から30単位、専門科目から94単位、合計124単位を修得する。							
I 共通教育科目							
必修科目24単位及び選択必修科目6単位を含め、30単位を修得する。							
(必修科目24単位 内訳)							
・教養コア系列 9単位							
・一般教養系列(人文教養分野) 3単位							
・一般教養系列(社会教養分野) 3単位							
・一般教養系列(自然科学分野) 2単位							
・一般教養系列(学際的教養分野) 7単位							
(選択必修科目6単位 内訳)							
・英語系列から6単位							
II 専門科目							
経済学科本科国際経済履修の専門科目から94単位(必修科目30単位及び選択必修科目64単位を含む。)以上を修得する。							
(必修科目30単位 内訳)							
・基礎科目12単位							
・経済政策総論 2単位、国際経済学 2単位、国際マクロ経済学 2単位							
・演習Ⅰ 4単位、演習Ⅱ 4単位、卒業論文演習 4単位							
(選択必修科目64単位 内訳)							
・A科目から38単位							
(その内、別表2の経済学系列の理論経済、計量経済、数理経済、動学経済、経済政策、金融経済、公共経済、地域経済、社会経済、政治経済、経済史の分野の科目から8単位以上、かつ国際経済学、国際金融、国際関係、国際協力、経済発展、東アジア経済社会、中国経済社会の分野の科目から12単位以上修得すること。)							
・自由科目から26単位							
(A科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)							
III TOEICスコア							
・山口大学が定める英語の試験においてTOEIC400点以上を取得したとみなされること。							

教育課程編成表等							
(経済学部経済学科 公共管理コース)							
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考	
			必修	選択	自由		
共通教育科目	教養コア	基礎セミナー	1	2			
		データ科学と社会Ⅰ	1	1			
		データ科学と社会Ⅱ	1	1			
		知的財産入門	1	1			
		運動健康科学	1	1			
		山口と世界	1	1			
		知の広場	1	1			
		キャリア教育	3	1			
		小計(8科目)		9	0	0	
	英語	英語Ⅰa	1		2		いずれか1科目を修得すること。
		英語Ⅱa	1		2		
		英語Ⅰb	1		2		いずれか1科目を修得すること。
		英語Ⅱb	1		2		
		英語会話Ⅰa	1		1		いずれか1科目を修得すること。
		英語会話Ⅱa	1		1		
		英語会話Ⅰb	1		1		いずれか1科目を修得すること。
		英語会話Ⅱb	1		1		
	小計(8科目)		0	6	0		
	一般教養	人文教養	哲学	1	1		
			歴史学	1	1		
			社会学	1	1		
			小計(3科目)		3	0	0
		社会教養	経済と法1	1	1		
			経済と法2	1	1		
			経済と法3	1	1		
			小計(3科目)		3	0	0
		自然教養	自然科学1	1	1		
			自然科学2	1	1		
		小計(2科目)		2	0	0	
		学際的教養	人間の発達と育成1	1	1		
			人間の発達と育成2	1	1		
			文化の継承と創造1	1	1		
			文化の継承と創造2	1	1		
社会と医療	1		1				
環境と人間	1		1				
食と生命	1		1				
小計(7科目)		7	0	0			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考	
			必修	選択	自由		
専門科目	基盤科目	ミクロ経済学Ⅰ	1	4			
		マクロ経済学Ⅰ	1	2			
		簿記	1	2			
		法学Ⅰ(国際法を含む。)	1	2			
		法学Ⅱ	1	2			
		小計(5科目)		12	0	0	
		経済政策総論	1・2・3・4	2			
		国際公共管理論	1・2・3・4	2			
		公共管理論	2・3・4	2			
		国際経済学	1・2・3・4	2			
	国際マクロ経済学	1・2・3・4	2				
	小計(5科目)		10	0	0		
	A科目	別表2の経済 公共管理コースの欄にAと記載されている科目	1・2・3・4		44		その内、別表2の経済学系列の科目から12単位以上修得すること。
	小計(科目)			0	44	0	
	B科目	別表2の経済 公共管理コースの欄にBと記載されている科目	1・2・3・4		4		
	小計(科目)			0	4	0	
	自由科目	別表2の経済 公共管理コースの欄が無印の科目	1・2・3・4		12		A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。
	小計(科目)			0	12	0	
	演習Ⅰ		2	4			
	演習Ⅱ		3	4			
	卒業論文演習		4	4			
	小計(3科目)			12	0	0	
	合計(科目)			58	66	0	
卒業(修了)要件及び履修方法							
【卒業要件】							
共通教育科目から30単位、専門科目から94単位、合計124単位を修得する。							
I 共通教育科目							
必修科目24単位及び選択必修科目6単位を含め、30単位を修得する。							
(必修科目24単位 内訳)							
・教養コア系列 9単位							
・一般教養系列(人文教養分野) 3単位							
・一般教養系列(社会教養分野) 3単位							
・一般教養系列(自然教養分野) 2単位							
・一般教養系列(学際的教養分野) 7単位							
(選択必修科目6単位 内訳)							
・英語系列から6単位							
II 専門科目							
経済学部公共管理コースの専門科目から94単位(必修科目34単位及び選択必修科目60単位を含む。)以上を修得する。							
(必修科目34単位 内訳)							
・基盤科目12単位							
・経済政策総論 2単位、国際公共管理論 2単位、公共管理論 2単位、国際経済学 2単位、国際マクロ経済学 2単位							
・演習Ⅰ 4単位、演習Ⅱ 4単位、卒業論文演習 4単位							
(選択必修科目60単位 内訳)							
・A科目から44単位							
(その内、別表2の経済学系列の科目から12単位以上修得すること。)							
・B科目から4単位							
・自由科目から12単位							
(A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)							
III TOEICスコア							
・山口大学が定める英語の試験においてTOEIC400点以上を取得したとみなされること。							

教育課程編成表等							
(経済学部経営学科 本科)							
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考	
			必修	選択	自由		
共通教育科目	教養コア	基礎セミナー	1	2			
		アーキテクチャと社会Ⅰ	1	1			
		アーキテクチャと社会Ⅱ	1	1			
		知的財産入門	1	1			
		運動健康科学	1	1			
		山口と世界	1	1			
		知の広場	1	1			
		キャリア教育	3	1			
		小計(8科目)		9	0	0	
	英語	英語Ⅰa	1		2		いずれか1科目を修得すること。
		英語Ⅱa	1		2		
		英語Ⅰb	1		2		いずれか1科目を修得すること。
		英語Ⅱb	1		2		
		英語会話Ⅰa	1		1		いずれか1科目を修得すること。
		英語会話Ⅱa	1		1		
		英語会話Ⅰb	1		1		いずれか1科目を修得すること。
		英語会話Ⅱb	1		1		
		小計(8科目)		0	6	0	
	一般教養	人文教養	哲学	1	1		
			歴史学	1	1		
			社会学	1	1		
		小計(3科目)		3	0	0	
		社会教養	経済と法1	1	1		
			経済と法2	1	1		
			経済と法3	1	1		
		小計(3科目)		3	0	0	
		自然教養	自然科学1	1	1		
			自然科学2	1	1		
			小計(2科目)		2	0	0
		学際的教養	人間の発達と育成1	1	1		
人間の発達と育成2	1		1				
文化の継承と創造1	1		1				
文化の継承と創造2	1		1				
社会と医療	1		1				
環境と人間	1		1				
食と生命	1		1				
小計(7科目)		7	0	0			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	必修	選択	自由	備考	
専門科目	基盤科目	ミクロ経済学Ⅰ	1	4			
		マクロ経済学Ⅰ	1	2			
		簿記	1	2			
		法学Ⅰ(国際法を含む。)	1	2			
		法学Ⅱ	1	2			
		小計(5科目)		12	0	0	
		経営学総論	1・2・3・4	2			
	経営組織論	1・2・3・4	2				
	マーケティング論	1・2・3・4	2				
	小計(3科目)		6	0	0		
	A科目	別表2の経営本科の欄にAと記載されている科目	1・2・3・4		40		その内、別表2の経営学系列の科目から24単位以上修得すること。
	小計(科目)			0	40	0	
	B科目	別表2の経営本科の欄にBと記載されている科目	1・2・3・4		4		
	小計(科目)			0	4	0	
	自由科目	別表2の経営本科の欄が無印の科目	1・2・3・4		20		A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。
小計(科目)			0	20	0		
演習Ⅰ	2	4					
演習Ⅱ	3	4					
卒業論文演習	4	4					
小計(3科目)		12	0	0	0		
合計(科目)			54	70	0		
卒業(修了)要件及び履修方法							
【卒業要件】							
共通教育科目から30単位、専門科目から94単位、合計124単位を修得する。							
I 共通教育科目							
必修科目24単位及び選択必修科目6単位を含め、30単位を修得する。							
(必修科目24単位 内訳)							
・教養コア系列 9単位							
・一般教養系列(人文教養分野) 3単位							
・一般教養系列(社会教養分野) 3単位							
・一般教養系列(自然教養分野) 2単位							
・一般教養系列(学際的教養分野) 7単位							
(選択必修科目6単位 内訳)							
・英語系列から6単位							
II 専門科目							
経営学科本科の専門科目から94単位(必修科目30単位及び選択必修科目64単位を含む。)以上を修得する。							
(必修科目30単位 内訳)							
・基盤科目 12単位							
・経営学総論 2単位、経営組織論 2単位、マーケティング論 2単位							
・演習Ⅰ 4単位、演習Ⅱ 4単位、卒業論文演習 4単位							
(選択必修科目64単位 内訳)							
・A科目から40単位							
(その内、別表2の経営学系列の科目から24単位以上修得すること。)							
・B科目から4単位							
・自由科目から20単位							
(A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)							
III TOEICスコア							
・山口大学が定める英語の試験においてTOEIC400点以上を取得したとみなされること。							

教 育 課 程 編 成 表 等

(経済学部経営学科 職業会計人コース (会計専攻))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考		
			必修	選択	自由			
共通教育科目	基礎セミナー	1	2					
	データ科学と社会 I	1	1					
	データ科学と社会 II	1	1					
	知的財産入門	1	1					
	運動健康科学	1	1					
	山口と世界	1	1					
	知の広場	1	1					
	キャリア教育	3	1					
	小計 (8科目)			9	0	0		
	英語	英語 I a	1		2		いずれか1科目を修得すること。	
		英語 II a	1		2			
		英語 I b	1		2		いずれか1科目を修得すること。	
		英語 II b	1		2			
		英語会話 I a	1		1		いずれか1科目を修得すること。	
		英語会話 II a	1		1			
		英語会話 I b	1		1		いずれか1科目を修得すること。	
		英語会話 II b	1		1			
	小計 (8科目)			0	6	0		
	一般教養	人文教養	1	1				
		歴史学	1	1				
		社会学	1	1				
		小計 (3科目)			3	0	0	
		社会教養	1	1				
		経済と法1	1	1				
		経済と法2	1	1				
		経済と法3	1	1				
		小計 (3科目)			3	0	0	
		自然教養	1	1				
		自然科学1	1	1				
		自然科学2	1	1				
		小計 (2科目)			2	0	0	
		学際的教養	1	1				
		人間の発達と育成1	1	1				
	人間の発達と育成2	1	1					
	文化の継承と創造1	1	1					
文化の継承と創造2	1	1						
社会と医療	1	1						
環境と人間	1	1						
食と生命	1	1						
小計 (7科目)			7	0	0			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考		
専門科目	ミクロ経済学 I	1	4					
	マクロ経済学 I	1	2					
	簿記	1	2					
	法学 I (国際法を含む。)	1	2					
	法学 II	1	2					
	小計 (5科目)			12	0	0		
	経営学総論	1・2・3・4	2					
	経営組織論	1・2・3・4	2					
	会計学特論	2・3・4	2					
	管理会計特論	2・3・4	2					
	小計 (4科目)			8	0	0		
	A科目	別表2の経営 職業会計人コース (会計専攻) の欄にAと記載されている科目	1・2・3・4		40			
	小計 (科目)			0	40	0		
	自由科目	別表2の経営 職業会計人コース (会計専攻) の欄が無印の科目	1・2・3・4		22		A科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。	
	小計 (科目)			0	22	0		
	演習 I	2	4					
	演習 II	3	4					
	卒業論文演習	4	4					
	小計 (3科目)			12	0	0		
	合計 (科目)			56	68	0		

卒業 (修了) 要件及び履修方法

【卒業要件】

共通教育科目から30単位、専門科目から94単位、合計124単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目24単位及び選択必修科目6単位を含め、30単位を修得する。

(必修科目24単位 内訳)

- ・教養コア系列 9単位
- ・一般教養系列(人文教養分野) 3単位
- ・一般教養系列(社会教養分野) 3単位
- ・一般教養系列(自然教養分野) 2単位
- ・一般教養系列(学際的教養分野) 7単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位

II 専門科目

経営学科職業会計人コース (会計専攻) の専門科目から94単位 (必修科目32単位及び選択必修科目62単位を含む。) 以上を修得する。

(必修科目32単位 内訳)

- ・基礎科目12単位
- ・経営学総論 2単位、経営組織論 2単位、会計学特論 2単位、管理会計特論 2単位
- ・演習 I 4単位、演習 II 4単位、卒業論文演習 4単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・A科目から40単位
- ・自由科目から22単位

(A科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)

III TOEICスコア

- ・山口大学が定める英語の試験においてTOEIC400点以上を取得したとみなされること。

教 育 課 程 編 成 表 等

(経済学部経営学科 職業会計人コース (税務専攻))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考	
			必修	選択	自由		
共通教育科目	教養コア	基礎セミナー	1	2			
		データ科学と社会 I	1	1			
		データ科学と社会 II	1	1			
		知的財産入門	1	1			
		運動健康科学	1	1			
		山口と世界	1	1			
		知の広場	1	1			
		キャリア教育	3	1			
	小計 (8科目)			9	0	0	
	英語	英語 I a	1		2		いずれか1科目を修得すること。
		英語 II a	1		2		
		英語 I b	1		2		いずれか1科目を修得すること。
		英語 II b	1		2		
		英語会話 I a	1		1		いずれか1科目を修得すること。
		英語会話 II a	1		1		
		英語会話 I b	1		1		いずれか1科目を修得すること。
		英語会話 II b	1		1		
	小計 (8科目)			0	6	0	
	一般教養	人文教養	哲学	1	1		
			歴史学	1	1		
			社会学	1	1		
			小計 (3科目)			3	0
		社会教養	経済と法1	1	1		
			経済と法2	1	1		
			経済と法3	1	1		
			小計 (3科目)			3	0
		自然教養	自然科学1	1	1		
			自然科学2	1	1		
			小計 (2科目)			2	0
		学際的教養	人間の発達と育成1	1	1		
			人間の発達と育成2	1	1		
			文化の継承と創造1	1	1		
			文化の継承と創造2	1	1		
社会と医療	1		1				
環境と人間	1		1				
食と生命	1		1				
小計 (7科目)			7	0	0		
合計				56	68	0	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考	
			必修	選択	自由		
専門科目	基礎科目	ミクロ経済学 I	1	4			
		マクロ経済学 I	1	2			
		簿記	1	2			
		法学 I (国際法を含む。)	1	2			
		法学 II	1	2			
		小計 (5科目)			12	0	0
	A科目	経営学総論	1・2・3・4		2		
		経営組織論	1・2・3・4		2		
		会計学特論	2・3・4		2		
		管理会計特論	2・3・4		2		
		小計 (4科目)			8	0	0
	自由科目	別表2の経営 職業会計人コース (税務) の欄にAと記載されている科目	1・2・3・4		40		
		小計 (科目)			0	40	0
		別表2の経営 職業会計人コース (税務) の欄が無印の科目	1・2・3・4		22		A科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。
		小計 (科目)			0	22	0
		演習 I	2	4			
		演習 II	3	4			
		卒業論文演習	4	4			
小計 (3科目)			12	0	0		
合計 (科目)			56	68	0		

卒業 (修了) 要件及び履修方法

【卒業要件】
 共通教育科目から30単位、専門科目から94単位、合計124単位を修得する。

I 共通教育科目
 必修科目24単位及び選択必修科目6単位を含め、30単位を修得する。

- (必修科目24単位 内訳)
- ・教養コア系列 9単位
 - ・一般教養系列(人文教養分野) 3単位
 - ・一般教養系列(社会教養分野) 3単位
 - ・一般教養系列(自然教養分野) 2単位
 - ・一般教養系列(学際的教養分野) 7単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位

II 専門科目
 経営学科職業会計人コース (税務専攻) の専門科目から94単位 (必修科目32単位及び選択必修科目62単位を含む。) 以上を修得する。

- (必修科目32単位 内訳)
- ・基礎科目12単位
 - ・経営学総論 2単位、経営組織論 2単位、会計学特論 2単位、管理会計特論 2単位
 - ・演習 I 4単位、演習 II 4単位、卒業論文演習 4単位

(選択必修科目62単位 内訳)

- ・A科目から40単位
- ・自由科目から22単位

(A科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)

III TOEICスコア

- ・山口大学が定める英語の試験においてTOEIC400点以上を取得したとみなされること。

教育課程編成表等								
(経済学部経営学科 企業法務コース)								
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考		
			必修	選択	自由			
共通教育科目	教養コア	基礎セミナー	1	2				
		データ科学と社会Ⅰ	1	1				
		データ科学と社会Ⅱ	1	1				
		知的財産入門	1	1				
		運動健康科学	1	1				
		山口と世界	1	1				
		知の広場	1	1				
		キャリア教育	3	1				
		小計(8科目)		9	0	0		
	英語	英語Ⅰa	1		2		いずれか1科目を修得すること。	
		英語Ⅱa	1		2			
		英語Ⅰb	1		2		いずれか1科目を修得すること。	
		英語Ⅱb	1		2			
		英語会話Ⅰa	1		1		いずれか1科目を修得すること。	
		英語会話Ⅱa	1		1			
	英語会話Ⅰb	1		1		いずれか1科目を修得すること。		
	英語会話Ⅱb	1		1				
	小計(8科目)		0	6	0			
	一般教養	人文教養	哲学	1	1			
			歴史学	1	1			
			社会学	1	1			
		社会教養	小計(3科目)		3	0	0	
			経済と法Ⅰ	1	1			
			経済と法Ⅱ	1	1			
			経済と法Ⅲ	1	1			
		自然科学教養	小計(3科目)		3	0	0	
			自然科学Ⅰ	1	1			
			自然科学Ⅱ	1	1			
		学際的教養	小計(2科目)		2	0	0	
			人間の発達と育成Ⅰ	1	1			
			人間の発達と育成Ⅱ	1	1			
			文化の継承と創造Ⅰ	1	1			
			文化の継承と創造Ⅱ	1	1			
社会と医療			1	1				
環境と人間			1	1				
食と生命	1	1						
小計(7科目)		7	0	0				
合計			16	6	0			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考		
必修	選択	自由						
専門科目	基礎科目	ミクロ経済学Ⅰ	1	4				
		マクロ経済学Ⅰ	1	2				
		簿記	1	2				
		法学Ⅰ(国際法を含む。)	1	2				
		法学Ⅱ	1	2				
		小計(5科目)		12	0	0		
	A科目	経営学総論	1・2・3・4	2				
		経営組織論	1・2・3・4	2				
		憲法Ⅰ	1・2・3・4	2				
		民法Ⅰ	1・2・3・4	2				
	小計(4科目)		8	0	0			
	B科目	別表2の経営 企業法務コースの欄にBと記載されている科目	1・2・3・4		20		その内、別表2の経営学系列の科目から8単位以上修得すること。	
		小計(科目)		0	20	0		
	自由科目	別表2の経営 企業法務コースの欄が無印の科目	1・2・3・4		22		A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。	
		小計(科目)		0	22	0		
		演習Ⅰ	2	4				
		演習Ⅱ	3	4				
	卒業論文演習	4	4					
	小計(3科目)		12	0	0			
	合計(科目)			56	68	0		
	卒業(修了)要件及び履修方法							
	【卒業要件】							
	共通教育科目から30単位、専門科目から94単位、合計124単位を修得する。							
I 共通教育科目								
必修科目24単位及び選択必修科目6単位を含め、30単位を修得する。								
(必修科目24単位 内訳)								
・教養コア系列 9単位								
・一般教養系列(人文教養分野) 3単位								
・一般教養系列(社会教養分野) 3単位								
・一般教養系列(自然科学分野) 2単位								
・一般教養系列(学際的教養分野) 7単位								
(選択必修科目6単位 内訳)								
・英語系列から6単位								
II 専門科目								
経営学科企業法務コースの専門科目から94単位(必修科目32単位及び選択必修科目62単位を含む。)以上を修得する。								
(必修科目32単位 内訳)								
・基礎科目12単位								
・経営学総論 2単位、経営組織論 2単位、憲法Ⅰ 2単位、民法Ⅰ 2単位								
・演習Ⅰ 4単位、演習Ⅱ 4単位、卒業論文演習 4単位								
(選択必修科目62単位 内訳)								
・A科目から20単位								
(その内、別表2の経営学系列の科目から8単位以上修得すること。)								
・B科目から20単位								
・自由科目から22単位								
(A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)								
III TOEICスコア								
・山口大学が定める英語の試験においてTOEIC400点以上を取得したとみなされること。								

教育課程編成表等							
(経済学部観光政策学科 本科)							
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考	
			必修	選択	自由		
共通教育科目	教養コア	基礎セミナー	1	2			
		データ科学と社会Ⅰ	1	1			
		データ科学と社会Ⅱ	1	1			
		知的財産入門	1	1			
		運動健康科学	1	1			
		山口と世界	1	1			
		知の広場	1	1			
		キャリア教育	3	1			
		小計(8科目)		9	0	0	
	英語	英語Ⅰa	1		2		いずれか1科目を修得すること。
		英語Ⅱa	1		2		
		英語Ⅰb	1		2		いずれか1科目を修得すること。
		英語Ⅱb	1		2		
		英語会話Ⅰa	1		1		いずれか1科目を修得すること。
		英語会話Ⅱa	1		1		
		英語会話Ⅰb	1		1		いずれか1科目を修得すること。
		英語会話Ⅱb	1		1		
		小計(8科目)		0	6	0	
	一般教養	人文教養	哲学	1	1		
			歴史学	1	1		
			社会学	1	1		
		小計(3科目)		3	0	0	
		社会教養	経済と法1	1	1		
			経済と法2	1	1		
			経済と法3	1	1		
		小計(3科目)		3	0	0	
		自然教養	自然科学1	1	1		
			自然科学2	1	1		
			小計(2科目)		2	0	0
		学際的教養	人間の発達と育成1	1	1		
			人間の発達と育成2	1	1		
			文化の継承と創造1	1	1		
			文化の継承と創造2	1	1		
社会と医療	1		1				
環境と人間	1		1				
食と生命	1	1					
小計(7科目)		7	0	0			
合計			16	6	0		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考	
必修	選択	自由					
専門科目	基礎科目	ミクロ経済学Ⅰ	1	4			
		マクロ経済学Ⅰ	1	2			
		簿記	1	2			
		法学Ⅰ(国際法を含む。)	1	2			
		法学Ⅱ	1	2			
		小計(5科目)		12	0	0	
		観光政策概論	1・2・3・4	2			
		観光経済学	1・2・3・4	2			
		観光コミュニケーション	1・2・3・4	2			
	異文化コミュニケーション論	1・2・3・4	2				
	小計(4科目)		8	0	0		
	A科目	別表2の観光政策本科の欄にAと記載されている科目	1・2・3・4		48		その内、別表2の観光政策学系列の科目から12単位以上修得すること。
		小計(1科目)		0	48	0	
	B科目	別表2の観光政策本科の欄にBと記載されている科目	1・2・3・4		2		
		小計(1科目)		0	2	0	
	自由科目	別表2の観光政策本科の欄が無印の科目	1・2・3・4		12		A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。
		小計(1科目)		0	12	0	
		演習Ⅰ	2	4			
		演習Ⅱ	3	4			
	卒業論文演習	4	4				
	小計(3科目)		12	0	0		
	合計(科目)		56	68	0		
	卒業(修了)要件及び履修方法						
	【卒業要件】						
共通教育科目から30単位、専門科目から94単位、合計124単位を修得する。							
Ⅰ 共通教育科目							
必修科目24単位及び選択必修科目6単位を含め、30単位を修得する。							
(必修科目24単位 内訳)							
・教養コア系列 9単位							
・一般教養系列(人文教養分野) 3単位							
・一般教養系列(社会教養分野) 3単位							
・一般教養系列(自然教養分野) 2単位							
・一般教養系列(学際的教養分野) 7単位							
(選択必修科目6単位 内訳)							
・英語系列から6単位							
Ⅱ 専門科目							
観光政策学科本科の専門科目から94単位(必修科目32単位及び選択必修科目62単位を含む。)以上を修得する。							
(必修科目32単位 内訳)							
・基礎科目12単位							
・観光政策概論 2単位、観光経済学 2単位、観光コミュニケーション 2単位、異文化コミュニケーション論 2単位							
・演習Ⅰ 4単位、演習Ⅱ 4単位、卒業論文演習 4単位							
(選択必修科目62単位 内訳)							
・A科目から48単位							
(その内、別表2の観光政策学系列の科目から12単位以上修得すること。)							
・B科目から2単位							
・自由科目から12単位							
(A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)							
Ⅲ TOEICスコア							
・山口大学が定める英語の試験においてTOEIC400点以上を取得したとみなされること。							

教育課程編成表等							
(経済学部観光政策学科 観光経済分析コース)							
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考	
			必修	選択	自由		
共通教育科目	教養コア	基礎セミナー	1	2			
		データ科学と社会Ⅰ	1	1			
		データ科学と社会Ⅱ	1	1			
		知的財産入門	1	1			
		運動健康科学	1	1			
		山口と世界	1	1			
		知の広場	1	1			
		キャリア教育	3	1			
	小計(8科目)		9	0	0		
	英語	英語Ⅰa	1		2		いずれか1科目を修得すること。
		英語Ⅱa	1		2		
		英語Ⅰb	1		2		いずれか1科目を修得すること。
		英語Ⅱb	1		2		
		英語会話Ⅰa	1		1		いずれか1科目を修得すること。
		英語会話Ⅱa	1		1		
		英語会話Ⅰb	1		1		いずれか1科目を修得すること。
		英語会話Ⅱb	1		1		
	小計(8科目)		0	6	0		
	一般教養	人文教養	1	1			
		歴史学	1	1			
		社会学	1	1			
		小計(3科目)		3	0	0	
		社会教養	1	1			
		経済と法1	1	1			
		経済と法2	1	1			
		経済と法3	1	1			
		小計(3科目)		3	0	0	
		自然教養	1	1			
		自然科学1	1	1			
		自然科学2	1	1			
小計(2科目)			2	0	0		
学際的教養		1	1				
人間の発達と育成1	1	1					
人間の発達と育成2	1	1					
文化の継承と創造1	1	1					
文化の継承と創造2	1	1					
社会と医療	1	1					
環境と人間	1	1					
家と生命	1	1					
小計(7科目)		7	0	0			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考	
			必修	選択	自由		
専門科目	基礎科目	ミクロ経済学Ⅰ	1	4			
		マクロ経済学Ⅰ	1	2			
		簿記	1	2			
		法学Ⅰ(国際法を含む。)	1	2			
		法学Ⅱ	1	2			
		小計(5科目)		12	0	0	
		観光政策概論	1・2・3・4	2			
		観光経済学	1・2・3・4	2			
		観光産業総論	1・2・3・4	2			
		環境経済学	1・2・3・4	2			
		観光コミュニケーション	1・2・3・4	2			
	異文化コミュニケーション論	1・2・3・4	2				
	プロジェクト演習Ⅰa	2・3・4	1				
	プロジェクト演習Ⅰb	2・3・4	1				
	小計(8科目)		14	0	0		
	A科目	別表2の観光政策 観光経済分析コースの欄にAと記載されている科目	1・2・3・4		42		その内、別表2の観光政策学系列の科目から12単位以上修得すること。
	小計(1科目)			0	42	0	
	B科目	別表2の観光政策 観光経済分析コースの欄にBと記載されている科目	1・2・3・4		2		
	小計(1科目)			0	2	0	
	自由科目	別表2の観光政策 観光経済分析コースの欄が無印の科目	1・2・3・4		12		A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。
	小計(1科目)			0	12	0	
	演習Ⅰ		2	4			
	演習Ⅱ		3	4			
	卒業論文演習		4	4			
	小計(3科目)			12	0	0	
	合計(科目)			62	62	0	
	卒業(修了)要件及び履修方法						
【卒業要件】 共通教育科目から30単位、専門科目から94単位、合計124単位を修得する。							
I 共通教育科目 必修科目24単位及び選択必修科目6単位を含め、30単位を修得する。 (必修科目24単位 内訳) ・教養コア系列 9単位 ・一般教養系列(人文教養分野) 3単位 ・一般教養系列(社会教養分野) 3単位 ・一般教養系列(自然教養分野) 2単位 ・一般教養系列(学際的教養分野) 7単位 (選択必修科目6単位 内訳) ・英語系列から6単位							
II 専門科目 観光政策学科観光経済分析コースの専門科目から94単位(必修科目38単位及び選択必修科目56単位を含む。)以上を修得する。 (必修科目38単位 内訳) ・基礎科目12単位 ・観光政策概論 2単位、観光経済学 2単位、観光産業総論 2単位、環境経済学 2単位、観光コミュニケーション 2単位、異文化コミュニケーション論 2単位、プロジェクト演習Ⅰa 1単位、プロジェクト演習Ⅰb 1単位 ・演習Ⅰ 4単位、演習Ⅱ 4単位、卒業論文演習 4単位 (選択必修科目56単位 内訳) ・A科目から42単位 (その内、別表2の観光政策学系列の科目から12単位以上修得すること。) ・B科目から2単位 ・自由科目から12単位 (A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)							
III TOEICスコア ・山口大学が定める英語の試験においてTOEIC400点以上を取得したとみなされること。							
IVその他 ・観光政策学科観光経済分析コースは語学評価認定も取得すること。							

教育課程編成表等								
(経済学部観光政策学科 観光コミュニケーションコース)								
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考		
			必修	選択	自由			
共通教育科目	教養コア	基礎セミナー	1	2				
		データ科学と社会Ⅰ	1	1				
		データ科学と社会Ⅱ	1	1				
		知的財産入門	1	1				
		運動健康科学	1	1				
		山口と世界	1	1				
		知の広場	1	1				
		キャリア教育	3	1				
	小計(8科目)			9	0	0		
	英語	英語Ⅰa	1		2		いずれか1科目を修得すること。	
		英語Ⅱa	1		2			
		英語Ⅰb	1		2		いずれか1科目を修得すること。	
		英語Ⅱb	1		2			
		英語会話Ⅰa	1		1		いずれか1科目を修得すること。	
		英語会話Ⅱa	1		1			
		英語会話Ⅰb	1		1		いずれか1科目を修得すること。	
		英語会話Ⅱb	1		1			
	小計(8科目)			0	6	0		
	一般教養	人文教養	哲学	1	1			
			歴史学	1	1			
			社会学	1	1			
		小計(3科目)			3	0	0	
		社会教養	経済と法Ⅰ	1	1			
			経済と法Ⅱ	1	1			
			経済と法Ⅲ	1	1			
		小計(3科目)			3	0	0	
		学際的教養	自然科学Ⅰ	1	1			
			自然科学Ⅱ	1	1			
			小計(2科目)			2	0	0
			人間の発達と育成Ⅰ	1	1			
人間の発達と育成Ⅱ			1	1				
文化の継承と創造Ⅰ			1	1				
文化の継承と創造Ⅱ	1		1					
社会と医療	1		1					
環境と人間	1	1						
食と生命	1	1						
小計(7科目)			7	0	0			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	必修	選択	自由	備考		
専門科目	基礎科目	ミクロ経済学Ⅰ	1	4				
		マクロ経済学Ⅰ	1	2				
		簿記	1	2				
		法学Ⅰ(国際法を含む。)	1	2				
		法学Ⅱ	1	2				
		小計(5科目)			12	0	0	
		観光政策概論	1・2・3・4	2				
		観光経済学	1・2・3・4	2				
		観光コミュニケーション	1・2・3・4	2				
		異文化コミュニケーション論	1・2・3・4	2				
	海外プロジェクト演習Ⅰa	2・3・4	1					
	海外プロジェクト演習Ⅰb	2・3・4	1					
	観光英語	1・2・3・4	2					
	プロジェクト演習Ⅰa	2・3・4	1					
	プロジェクト演習Ⅰb	2・3・4	1					
	小計(9科目)			14	0	0		
	A科目	別表2の観光政策 観光コミュニケーションコースの欄にAと記載されている科目	1・2・3・4		42		その内、別表2の観光政策学系列の科目から12単位以上修得すること。	
	小計(科目)			0	42	0		
	B科目	別表2の観光政策 観光コミュニケーションの欄にBと記載されている科目	1・2・3・4		2			
	小計(科目)			0	2	0		
自由科目	別表2の観光政策 観光コミュニケーションの欄が無印の科目	1・2・3・4		12		A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。		
小計(科目)			0	12	0			
演習Ⅰ	2	4						
演習Ⅱ	3	4						
卒業論文演習	4	4						
小計(3科目)			12	0	0			
合計(科目)			62	62	0			
卒業(修了)要件及び履修方法								
【卒業要件】								
共通教育科目から30単位、専門科目から94単位、合計124単位を修得する。								
I 共通教育科目								
必修科目24単位及び選択必修科目6単位を含め、30単位を修得する。								
(必修科目24単位 内訳)								
・教養コア系列 9単位								
・一般教養系列(人文教養分野) 3単位								
・一般教養系列(社会教養分野) 3単位								
・一般教養系列(自然教養分野) 2単位								
・一般教養系列(学際的教養分野) 7単位								
(選択必修科目6単位 内訳)								
・英語系列から6単位								
II 専門科目								
観光政策学科観光コミュニケーションコースの専門科目から94単位(必修科目38単位及び選択必修科目56単位を含む。)以上を修得する。								
(必修科目38単位 内訳)								
・基礎科目12単位								
・観光政策概論 2単位、観光経済学 2単位、観光コミュニケーション 2単位、異文化コミュニケーション論 2単位、海外プロジェクト演習Ⅰa 1単位、海外プロジェクト演習Ⅰb 1単位、観光英語 2単位、プロジェクト演習Ⅰa 1単位、プロジェクト演習Ⅰb 1単位								
・演習Ⅰ 4単位、演習Ⅱ 4単位、卒業論文演習 4単位								
(選択必修科目56単位 内訳)								
・A科目から42単位								
(その内、別表2の観光政策学系列の科目から12単位以上修得すること。)								
・B科目から2単位								
・自由科目から12単位								
(A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)								
III TOEICスコア								
・山口大学が定める英語の試験においてTOEIC400点以上を取得したとみなされること。								
IV その他								
・観光政策学科観光コミュニケーションコースは語学評価認定も取得すること。								

別表2 専門科目

1 専門に関する科目

[経済学系列]

教育研究分野	授業科目	単位数	科目類型	経済			経営				観光政策		
				本科		公共管理 コース	本科	職業会計人コース		企業法務 コース	本科	観光経済 分析 コース	観光コミュニ ケーション コース
				(経済)	(国際経済)			会計	税務				
理論経済	ミクロ経済学Ⅰ	4	基盤	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	ミクロ経済学Ⅱ	2	各論2	A	A	A					A	A	
	マクロ経済学Ⅰ	2	基盤	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	マクロ経済学Ⅱ	2	各論2	A	A	A							
	政治経済学Ⅰ	2	総論	A	A	A	A			A	A	A	A
	政治経済学Ⅱ	2	各論2	A		A							
	経済学の歴史	2	総論	A		A	A	A	A	A			
計量経済	経済統計学Ⅰ	2	総論	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	経済統計学Ⅱ(注1)	2	各論2	A		A	A	A	A		A	A	
	計量経済学	2	各論2	A		A					A	A	
	経済情報処理概論	2	各論2	A		A					A	A	A
数理経済	経済数学入門	2	総論	A		A	A	A	A	A	A	A	
	経済数学Ⅰ	2	総論	A		A							
	経済数学Ⅱ	2	各論2	A		A							
	数理経済学	2	各論2	A		A							
	産業関連論	2	各論2	A		A					A	A	
動学経済	景気循環論	2	各論2	A		A							
	経済成長論	2	各論2	A		A							
経済政策	経済政策総論	2	総論	◎	◎	◎							
	厚生経済学	2	各論2	A		A							
金融経済	金融経済論	4	総論	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
	金融システム論	2	各論2	A		A	A	A	A	A			
公共経済	財政学	4	総論	A	A	A	A			A	A	A	
	国際公共管理論	2	総論	A	A	◎					A	A	A
	公共政策論	2	各論2	A		A	A	A	A	A	A	A	
	公共管理論	2	各論2		A	◎	A	A	A	A	A	A	A
地域経済	公共経営論	2	各論2		A	A	A	A	A	A			
	地域経済論	2	総論	A		A	A	A	A	A	A	A	
	地方財政論	2	各論2	A		A					A	A	
	地域福祉社会学	2	各論2	A		A							
社会経済	地域政策論	2	各論2	A		A	A			A	A	A	A
	社会政策論	4	総論	A		A	A			A			
	労働経済論	2	各論2	A	A	A	A			A			
	ジェンダー論	2	各論2	A		A	A			A			
	医療福祉経済論	2	各論2	A		A				A			
	医療福祉事情と経済	2	各論2	A		A	A	A	A	A	A	A	
	情報法Ⅰ	2	各論2	A		A	A	A	A	A			
情報法Ⅱ	2	各論2	A		A				A				
政治経済	政治学	2	総論	A	A	A	A			A			
経済史	日本経済史総論	2	総論	A		A							
	西洋経済史総論	2	総論	A	A	A							
	日本経済史各論	2	各論2	A		A							
	西洋経済史各論	2	各論2	A		A							A
国際経済学	国際経済学	2	総論	◎	◎	◎	A			A	A	A	
	国際マクロ経済学	2	総論	◎	◎	◎				A			
	国際政治経済学	2	総論	A	A	A	A			A	A	A	A
	貿易論	2	各論2		A								
国際金融	国際金融論	2	総論	A	A	A	A	A	A	A	A		
国際関係	国際関係論	2	総論	A	A	A				A			
	現代世界経済論	2	総論	A	A	A	A			A	A	A	
	アメリカ経済論	2	各論2	A	A	A					A	A	
	ヨーロッパ経済論	2	各論2	A	A	A					A	A	
国際協力	国際協力論	2	総論	A	A	A				A	A		A
	国際地域統合論	2	各論2		A								
	国際人権法	2	各論2	A		A				A			
経済発展	経済発展論	2	総論	A	A	A	A				A	A	
	国際環境保全論	2	各論2		A	A					A	A	A
	開発とジェンダー	2	各論2		A	A							

[経済学系列]

教育研究分野	授業科目	単位数	科目類型	経済			経営				観光政策		
				本科		公共管理 コース	本科	職業会計人コース		企業法務 コース	本科	観光経済 分析 コース	観光コミュニ ケーション コース
				(経済)	(国際経済)			会計	税務				
東アジア 経済社会	日本経済論	2	各論2	A	A	A	A	A	A	A			
	東アジア経済論	2	総論	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	アジア社会経済論	2	各論2		A	A					A		A
中国経済社会	中国経済論	2	総論	A	A	A	A			A	A	A	A
	中国経済史	2	各論2	A	A	A							
	中国経済事情	2	各論2		A	A							
公共管理コース	大学院先取り履修科目	-	要件外	-	-	(注2)	-	-	-	-	-	-	-

1. (注1)の「経済統計学Ⅱ」は、「経済統計学Ⅰ」を修得した後に履修することが望ましい科目です。

2. (注2)は、大学院の科目を4年次に履修できる制度で、当該大学院へ進学した場合に修了要件単位に認定されます。※上限10単位

[経営学系列]

教育研究分野	授業科目	単位数	科目類型	経済			経営				観光政策		
				本科		公共管理 コース	本科	職業会計人コース		企業法務 コース	本科	観光経済 分析 コース	観光コミュニ ケーション コース
				(経済)	(国際経済)			会計	税務				
経営管理	経営学総論	2	総論	A	A	A	◎	◎	◎	◎	A	A	A
	経営組織論	2	総論	A		A	◎	◎	◎	◎	A	A	A
	経営管理論	2	総論	A		A	A	A	A	A			
	労務管理論	2	各論2	A		A	A			A			
	財務管理論	2	総論	A		A	A	A	A	A	A	A	
	生産管理論	2	各論2	A		A	A			A			
	国際経営論	2	総論	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	経営戦略論	2	各論2	A		A	A	A	A	A			
	投資論	2	各論2	A		A	A	A	A	A			
	地域企業経営論	2	総論	A		A	A	A	A	A		A	
中小企業経営論	2	各論2	A		A	A	A	A	A	A	A	A	
経営史	経営史	2	総論	A		A	A	A	A	A			
	日本経営史	2	各論2				A	A	A	A			
企業行動	企業論	2	総論	A		A	A	A	A	A			
	多国籍企業論	2	総論		A	A	A	A	A	A			
経営情報	経営工学	4	総論				A	A	A	A			
経営数理	経営数学	2	総論	A			A	A	A	A			
	経営統計学	2	各論2				A			A			
財務会計	会計学1	2	総論	A			A	A	A	A		A	
	会計学2	2	各論2				A	A	A	A			
	財務会計論	2	各論2				A	A	A	A		A	
	財務諸表分析	2	各論2				A	A	A	A		A	
	会計監査	2	各論2				A	A	A	A			
	会計学特論	2	総論				A	◎	◎	A			
簿記	簿記	2	基盤	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	応用簿記	2	総論				A	A	A	A			
	株式会社簿記	2	総論				A	A	A	A			
	企業結合会計論	2	各論2				A	A	A	A			
	商業簿記特論	4	各論2				A	A	A	A			
	財務会計特論	4	各論2				A	A	A	A			
	税法特論	2	各論2						A				
	法人税法1	2	各論2				A	A	A	A		A	
法人税法2	2	各論2				A	A	A	A				
管理会計	工業簿記	2	総論				A	A	A	A			
	原価計算論	2	各論2				A	A	A	A			
	管理会計論	2	各論2				A	A	A	A	A	A	A
	管理会計特論	2	各論2				A	◎	◎	A		A	
	医療マネジメント	2	各論2				A	A	A	A	A	A	
流通	流通論Ⅰ	2	総論	A	A	A	A	A	A	A			
	流通論Ⅱ	2	総論	A		A	A			A			
マーケティング	マーケティング論	2	総論	A	A	A	◎	A	A	A	A	A	A
	マーケティング戦略論	2	各論2				A			A			
商品	商品学	2	総論	A	A	A	A	A	A	A			
	商品開発論	2	各論2				A			A			
保険	保険論Ⅰ	2	総論	A		A	A	A	A	A	A	A	
	保険論Ⅱ	2	各論2				A			A			
	医療リスクマネジメント	2	各論2				A	A	A	A	A	A	
経済基本法	法学Ⅰ(国際法を含む。)	2	基盤	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	法学Ⅱ	2	基盤	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	法理学	2	総論	B		B	B			B			
	憲法Ⅰ	2	総論	B		B	B			◎	B	B	B
	憲法Ⅱ	2	各論2							B			
	民法Ⅰ	2	総論	B		B	B	A	A	◎	B	B	B
	民法Ⅱ	2	総論	B		B	B	A	A	B			
	民法Ⅲ	2	各論2	B		B				B			
	民法Ⅳ	2	総論	B		B				B	B	B	B
	民法Ⅴ	2	総論	B		B				B			
	刑法総論	2	総論								B		
	刑法各論	2	総論								B		
刑事訴訟法	2	各論2								B			

[経営学系列]

教育研究分野	授業科目	単位数	科目類型	経済			経営				観光政策		
				本科		公共管理 コース	本科	職業会計人コース		企業法務 コース	本科	観光経済 分析 コース	観光コミュニ ケーション コース
				(経済)	(国際経済)			会計	税務				
現代企業法	商法Ⅰ	2	総論	B		B	B	A	A	B	B	B	B
	商法Ⅱ	2	総論	B		B	B	A	A	B	B	B	B
	商法Ⅲ	2	各論2	B		B				B			
	商法Ⅳ	2	各論2	B		B				B			
	経済法	2	総論	B		B	B			B	B	B	B
	知的財産権法	2	各論2	B		B	B			B	B	B	B
社会生活法	社会法Ⅰ	2	総論	B		B	B			B			
	社会法Ⅱ	2	総論				B			B			
	民事訴訟法	2	各論2							B			
行政システム法	行政法Ⅰ	2	総論	B		B				B	B	B	B
	行政法Ⅱ	2	各論2			B				B			
	税法Ⅰ	2	総論	B		B	B	A	A	B			
	税法Ⅱ	2	各論2				B			B			

〔観光政策学系列〕

教育研究分野	授業科目	単位数	科目類型	経済			経営			観光政策			
				本科		公共管理 コース	本科	職業会計人コース		企業法務 コース	本科	観光経済 分析 コース	観光コミュニ ケーション コース
				(経済)	(国際経済)			会計	税務				
観光経済	観光政策概論	2	総論	A		A	A			A	◎	◎	◎
	観光経済学	2	総論	A		A	A			A	◎	◎	◎
	観光統計学	2	各論2	A		A					A	A	A
	観光地域経済論	2	各論2	A		A	A	A	A	A	A	A	A
	観光政策評価論	2	各論2								A	A	A
観光ビジネス	観光産業総論	2	総論	A	A	A	A			A	A	◎	A
	観光マーケティング論	2	各論2	A		A	A			A	A	A	A
	ヘルスツーリズム論	2	各論2				A			A	A	A	A
	ホスピタリティマネジメント	2	各論2				A	A	A	A	A	A	A
	旅行契約と約款	2	各論2							A	A	A	A
観光と環境	環境経済学	2	総論	A	A	A					A	◎	A
	エコ・ツーリズム論	2	各論2								A	A	A
	観光地理学	2	各論2				A				A	A	A
	地理学概論	2	各論2								A	A	A
観光文化交流	観光コミュニケーション	2	総論	A		A					◎	◎	◎
	異文化コミュニケーション論	2	総論	A	A	A					◎	◎	◎
	国際メディア論	2	総論								A	A	A
	観光文化心理学	2	総論				A				A	A	A
	観光メディア論	2	総論								A	A	A
	海外プロジェクト演習Ⅰa	1		—	—	—	—	—	—	—		A	◎
	海外プロジェクト演習Ⅰb	1		—	—	—	—	—	—	—		A	◎
	海外プロジェクト演習Ⅱa	1		—	—	—	—	—	—	—		A	A
	海外プロジェクト演習Ⅱb	1		—	—	—	—	—	—	—		A	A
	日本文化・宗教論	2	各論2								A	A	A
	山口の歴史と文化	2	各論2	A							A	A	A
	民俗学・文化人類学特殊講義 (現代民俗)	2	各論2								A		A
	民俗学・文化人類学特殊講義 (生活文化)	2	各論2								A		A
	宗教学概論	2	各論2								A		A
	食文化論	2	各論2								A		A
美術史Ⅱ (壁画並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)	2	各論2								A		A	
英語	観光英語	2									A	A	◎
	プロジェクト演習Ⅰa(注1)	1		—	—	—	—	—	—	—		◎	◎
	プロジェクト演習Ⅰb(注1)	1		—	—	—	—	—	—	—		◎	◎
	プロジェクト演習Ⅱa(注1)	1		—	—	—	—	—	—	—		A	A
	プロジェクト演習Ⅱb(注1)	1		—	—	—	—	—	—	—		A	A
	語学評価認定(注2)	—		—	—	—	—	—	—	—	—	◎	◎

- (注1)の「プロジェクト演習」は、観光政策学科の学生のみ履修することができます。
「プロジェクト演習」は原則2年次に履修してください。
- 「海外プロジェクト演習」「プロジェクト演習」は「Ⅰa→Ⅰb」→「Ⅱa→Ⅱb」の順に履修してください。
- (注2)の「語学評価認定」は、観光政策学科観光経済分析コース及び観光コミュニケーションコースの学生にのみ設けられた卒業要件です。認定基準は、次の1～6のいずれかとします。
 - TOEICスコア600点以上。
 - TOEICスピーキング・ライティング(SW)テストスコア240点以上。
 - TOEICスコアが500点(SW210点)以上であり、かつ学部共通科目(外国語)に属する「中国語」又は「韓国語」の科目群から8単位以上を修得し、経済学部が指定する語学認定試験に合格する。
 - TOEICスコアが500点(SW210点)以上であり、かつ「海外プロジェクト演習」の単位を修得する。
 - TOEICスコアが500点(SW210点)以上であり、かつ山口大学経済学部又は留学生センターが主催する語学研修を修了する。
※経済学部主催の語学研修とは、教授会もしくは学務委員会の承認を得た海外大学の語学センターが提供する1か月間の英語特訓講座を指す。
なお、山口大学留学生センター主催の語学研修の場合は、経済学部学務委員会、教授会に諮り承認を審議する。
 - TOEICスコアが400点(SW180点)以上であり、かつ学部共通科目(外国語)に属する「中国語」又は「韓国語」の科目群から8単位以上を修得し、経済学部が指定する語学認定試験に合格する。

2 教科及び教科の指導法に関する科目等

分野	授業科目	単位数
大学が独自に設定する科目	商業教育論	2
教科及び教科の指導法に関する科目	職業指導	2
教科及び教科の指導法に関する科目	哲学概論	2
教科及び教科の指導法に関する科目	西洋哲学概論(倫理学)	2

山口大学情報・データ科学教育センター規則

(令和2年3月18日規則第15号)

改正 令和3年3月30日規則第52号 令和3年5月14日規則第60号
令和3年6月24日規則第71号 令和4年9月27日規則第93号
令和6年3月19日規則第17号 令和7年9月30日規則第138号

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人山口大学学則(平成16年規則第1号)第10条の2第2項の規定に基づき、山口大学情報・データ科学教育センター(以下「センター」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、データサイエンス教育の管理、運営体制の整備及び組織的指導体制を確立するとともに、数理的思考を備え、データ分析・活用できる人材を育成し、もって社会の課題解決・発展に資することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の業務を行う。

- (1) 学部共通教育におけるデータサイエンス教育の企画及び運営に関すること。
- (2) 専門教育におけるデータサイエンス教育の企画及び運営並びに連絡調整に関すること。
- (3) 大学院教育におけるデータサイエンス教育の企画及び運営並びに連絡調整に関すること。
- (4) リカレント教育におけるデータサイエンス教育の企画及び運営に関すること。
- (5) データサイエンスに関連する研究及び社会連携に係る連絡調整に関すること。
- (6) データサイエンス教育に係る調査及び研究に関すること。
- (7) データサイエンス教育の評価及び改善に関すること。
- (8) その他前条の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(職員)

第4条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
 - (2) 副センター長
 - (3) センター所属の大学教育職員
- 2 センターに、必要に応じて前項以外の職員を置くことができる。
- 3 第1項第3号に規定する大学教育職員の選考に関し必要な事項は、別に定める。

(センター長)

第5条 センター長は、国立大学法人山口大学(以下「本法人」という。)の大学教育職員のうちから学長が指名する。

2 センター長は、センターの業務を総括する。

3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長の任期は、学長の任期の終期を超えることができない。

4 センター長に欠員が生じた場合の後任のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第6条 副センター長は、本法人の職員のうちからセンター長が指名した者をもって充てる。

2 副センター長は、センター長の業務を補佐する。

3 副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、副センター長の任期の末日は、当該副センター長を指名したセンター長の任期の末日以前とする。

4 副センター長に欠員が生じた場合の後任の副センター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター会議)

第7条 センターに、山口大学情報・データ科学教育センター会議(以下「センター会議」という。)を置く。

2 センター会議は、センターに係る次の事項について審議する。

(1) 管理及び運営に関する事項

(2) 活動方針に関する事項

(3) 予算に関する事項

(4) 大学教育職員の教育研究業績等の資格審査に関する事項

(5) その他センターの管理及び運営に関する必要な事項

3 センター会議は、次の委員をもって組織する。

(1) センター長

(2) 副センター長

(3) センター所属の大学教育職員

(4) 次条に規定する各部会の部会長

(5) 学生支援部教育支援課長

(6) その他センター会議が必要と認めた者

- 4 センター会議に議長を置き、センター長をもって充てる。
- 5 議長は、センター会議を招集し、その議長となる。
- 6 議長に事故あるときは、あらかじめセンター長が指名した者が、その職務を代行する。
- 7 センター会議が必要と認めたときは、委員以外の者をセンター会議に出席させることができる。
- 8 第3項の委員のうち、教授でない者は、第2項第4号の事項の議事には加わらないものとする。

(部会)

第8条 センターに、データサイエンス教育を支援するため、次の部会を置く。

- (1) 共通教育企画調整部会
- (2) 共通教育実施部会
- (3) データサイエンス教育専門部会
- (4) データサイエンス教育全学調整部会
- (5) データサイエンス教育大学院部会
- (6) リカレント教育部会

2 部会に関し必要な事項は、センターが別に定める。

(事務)

第9条 センターに関する事務は、学生支援部教育支援課において処理する。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 第5条第1項の規定にかかわらず、当分の間、センター長は、教育学生を担当する副学長をもって充てるものとする。

附 則(令和3年3月30日規則第52号)

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則(令和3年5月14日規則第60号)

この規則は、令和3年5月14日から施行する。

附 則(令和 3 年 6 月 24 日規則第 71 号)

この規則は、令和 3 年 6 月 24 日から施行し、この規則による改正後の山口大学情報・データ科学教育センター規則の規定は、令和 3 年 6 月 1 日から適用する。

附 則(令和 4 年 9 月 27 日規則第 93 号)

この規則は、令和 4 年 9 月 27 日から施行する。

附 則(令和 6 年 3 月 19 日規則第 17 号)

この規則は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 7 年 9 月 30 日規則第 138 号)

この規則は、令和 7 年 11 月 1 日から施行する。

大学等名	山口大学（経済学部）
教育プログラム名	データサイエンス応用基礎プログラム（経済学部）

申請レベル	応用基礎レベル（学部・学科等単位）
申請年度	令和7年度

取組概要

1. プログラムの目的	山口大学経済学部では、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育プログラムを実施し、自らの専門分野への活用を可能とする応用基礎力を修得することを目的としている。																																																																																								
2. 身に付けられる能力	<ol style="list-style-type: none"> データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力 自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点 AIの基本的な概念と手法、応用例を学ぶことで、AI技術を活用し課題解決につなげる能力 																																																																																								
3. 開講されている科目の構成	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンス応用基礎Ⅰ（2単位）、データサイエンス応用基礎Ⅱ（2単位）（経済学部共通開科目） <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">基本的要素</th> <th style="width: 15%;">授業科目</th> <th style="width: 15%;">データ科学と社会Ⅰ※</th> <th style="width: 15%;">データ科学と社会Ⅱ※</th> <th style="width: 15%;">データサイエンス応用基礎Ⅰ</th> <th style="width: 15%;">データサイエンス応用基礎Ⅱ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="background-color: #004a7c; color: white; text-align: center; vertical-align: middle;">Ⅰ. データ表現とアルゴリズム</td> <td>1-6. 数学基礎</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1-7. アルゴリズム</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2-2. データ表現</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2-7. プログラミング基礎</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="10" style="background-color: #004a7c; color: white; text-align: center; vertical-align: middle;">Ⅱ. AI・データサイエンス基礎</td> <td>1-1. データ駆動型社会とデータサイエンス</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1-2. 分析設計</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>2-1. ビックデータとデータエンジニアリング</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>3-1. AIの歴史と応用分野</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>3-2. AIと社会</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>3-3. 機械学習の基礎と展望</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>3-4. 深層学習の基礎と展望</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>3-5. 生成AIの基礎と展望</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>3-10. AIの構築と運用</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="background-color: #8b4513; color: white; text-align: center; vertical-align: middle;">Ⅲ. AI・データサイエンス実践</td> <td>I. データ表現とアルゴリズム</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>II. AI・データサイエンス基礎</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center; margin-top: 5px;">※受講要件のリテラシーレベルの数理・データサイエンス・AI教育プログラムの「データ科学と社会」の授業科目</p>					基本的要素	授業科目	データ科学と社会Ⅰ※	データ科学と社会Ⅱ※	データサイエンス応用基礎Ⅰ	データサイエンス応用基礎Ⅱ	Ⅰ. データ表現とアルゴリズム	1-6. 数学基礎			○		1-7. アルゴリズム			○		2-2. データ表現	○		○		2-7. プログラミング基礎			○		Ⅱ. AI・データサイエンス基礎	1-1. データ駆動型社会とデータサイエンス	○	○	○		1-2. 分析設計			○	○	2-1. ビックデータとデータエンジニアリング	○		○	○	3-1. AIの歴史と応用分野	○	○		○	3-2. AIと社会		○		○	3-3. 機械学習の基礎と展望		○		○	3-4. 深層学習の基礎と展望		○		○	3-5. 生成AIの基礎と展望				○	3-10. AIの構築と運用				○	Ⅲ. AI・データサイエンス実践	I. データ表現とアルゴリズム			○		II. AI・データサイエンス基礎			○	○
基本的要素	授業科目	データ科学と社会Ⅰ※	データ科学と社会Ⅱ※	データサイエンス応用基礎Ⅰ	データサイエンス応用基礎Ⅱ																																																																																				
Ⅰ. データ表現とアルゴリズム	1-6. 数学基礎			○																																																																																					
	1-7. アルゴリズム			○																																																																																					
	2-2. データ表現	○		○																																																																																					
	2-7. プログラミング基礎			○																																																																																					
Ⅱ. AI・データサイエンス基礎	1-1. データ駆動型社会とデータサイエンス	○	○	○																																																																																					
	1-2. 分析設計			○	○																																																																																				
	2-1. ビックデータとデータエンジニアリング	○		○	○																																																																																				
	3-1. AIの歴史と応用分野	○	○		○																																																																																				
	3-2. AIと社会		○		○																																																																																				
	3-3. 機械学習の基礎と展望		○		○																																																																																				
	3-4. 深層学習の基礎と展望		○		○																																																																																				
	3-5. 生成AIの基礎と展望				○																																																																																				
	3-10. AIの構築と運用				○																																																																																				
	Ⅲ. AI・データサイエンス実践	I. データ表現とアルゴリズム			○																																																																																				
II. AI・データサイエンス基礎				○	○																																																																																				
4. 修了要件	以下の科目の単位を全て修得すること。 <ol style="list-style-type: none"> 「データ科学と社会Ⅰ」及び「データ科学と社会Ⅱ」 「データサイエンス応用基礎Ⅰ」及び「データサイエンス応用基礎Ⅱ」 																																																																																								
5. 実施体制	情報・データ科学教育センターが経済学部と連携し本教育プログラムの計画・実施・評価・改善を担っている。																																																																																								